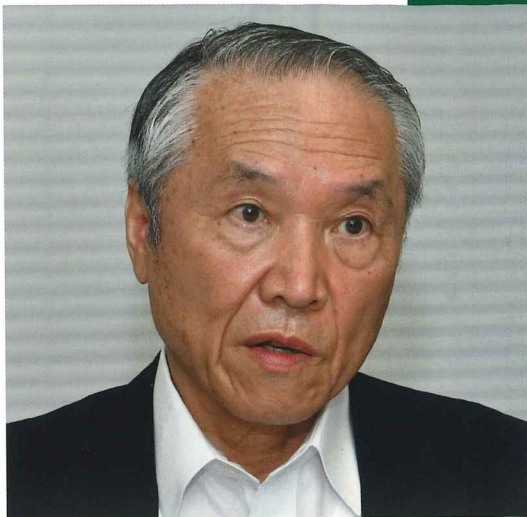


# 全国自動車電装品整備 商工組合連合会会長

## 紫関雅美氏

### 短時間で効率的な働き方へ

全国自動車電装品整備商工組合連合会(電整連)は、エンジン関連の電装品やエアコン、ETCなどを装着・修理する事業者で構成する。自動車の技術革新を背景に電装部品の重要性は高まっており、特定整備でも一部業務が対象となった。コロナ禍の影響や特定整備認証への取り組みなどについて紫関雅美(しせき・まさみ)会長に聞いた。



働していたためだ」

「大規模事業者は電装品の物販を行っており、こちらは減収が目立った。しかし、業界の収益はサービス事業が柱となっているため、大きな落ち込みは発生していない」

「整備業界では外出自粛による入庫減が発生したが

自動車電装業は  
大きな落ち込みはない

— コロナ禍の影響は

「全体を見渡すと、それほど大きくない。例年と比較して、業務量が1〜2割低減した程度ではないか。所属する約1300社のうち、8割はサービス事業が中心で、ディーラーや整備工場がコロナ禍でも稼

抜本的な改善は難しく、細かい商談

相応の期待は持てるのではないかと

「クルマそのものが進化していく

(谷口利満)

— ウイズコロナ時代に業界はどのように対応するか

「われわれの業界はリモートワークができない。コロナ禍で働き方改革が急速に進んだが、現場では感

染予防対策を取りながら職務を行っていた。そういった意味では、2月下旬からウィズコロナの働き方を継続してきた。その中で、ディーラーなどは時短営業を実施していたため、従来よりも短時間で効率的に業務を行う働き方は普及した」

将来は一気通貫で  
行う事業者が増える

— 4月に特定整備制度がスタートした

「電整連の組合員では、大きく三つのパターンに分かれる。2割は人手不足などが原因で対応が難しい。5〜6割は、認証を取得してエアコンの整備を継続する。残りの2割は認証工場となっており、電気に関連する整備を行いつつ、エーミングにも対応していくのではないかと」

「エーミング作業の需要は現段階でまだ低く、先行投資の段階だ。将来は、電気系統のチェック、補正、修理を含め、一気通貫で行う事業者が増えるだろう」

特定整備認証などで  
関係団体と連携

— 今後の取り組みは

「所管官庁や関係団体とは、講習会の進捗状況や整備士資格の見直しなどについて連携を図っていく。特に特定整備認証については今後、議論をしていかなければならない。自動車運転が普及した際の、業務に関する技術や知識を習得するためのテキスト、実習を行う講師の登用を考える必要がある」

(谷口利満/梅崎 信孝)